

パナソニックの一体型LEDベースライト「iDシリーズ」が累計出荷台数2,000万台を突破。

- ▶2012年12月の発売以来、オフィスを中心とした施設などで好評の一体型LEDベースライト「iDシリーズ」は、2018年4月中旬で、累計出荷台数2,000万台を突破しました。
- ▶2018年4月には、10000lmと高光束が特長で工場・倉庫などの天井の高い空間におすすめの「40形 10000lmタイプ」を発売。パナソニック従来の高光束蛍光灯器具に比べ^{※1}コンパクトで省エネを実現。演色性がRa83と高く、色ラベルなどの識別作業を伴う工場・倉庫空間におすすめです。
- ▶パナソニックは、政府による「新成長戦略」「エネルギー基本計画」^{※2}や、一般社団法人日本照明工業会の「照明成長戦略2020」^{※3}の目標に基づき、2019年3月末をもって蛍光灯照明器具の生産を終了^{※4}します。
- ▶LED照明の更なる普及を促進させ、「iDシリーズ」など質の高いLED照明器具を提供していくことで、あかり文化の向上、地球環境への貢献を目指していきます。



※1 40形直付型Dスタイル(直付XLX400DEN LE2)とパナソニック従来の高光束蛍光灯器具(FSA43500A PH9)との比較。
 ※2 経済産業省「新成長戦略」「エネルギー基本計画」(2010年6月18日閣議決定):グリーン・イノベーションによる環境・エネルギー大戦略の柱の一つとして、高効率次世代照明(LED照明・有機EL照明)を2020年までにフローで100%、2030年までにストックで100%普及させることを目標とするもの。
 ※3 半導体照明(SSL)の占有率を2020年にフロー100%、ストック50%、2030年にストック100%対応を目標とするもの(SSL: Solid State Lighting LED、有機EL、レーザーなど半導体照明のこと)。
 ※4 照明器具の補修用性能部品(電気部分)については、生産終了後、最低6年間保有します。メンテナンス用の蛍光灯ランプは、照明器具生産終了後も継続生産します。

商品の詳しい情報は

パナソニックの工場跡地を活用した次世代都市型スマートシティ「Tsunashima(綱島)SST」がまちびらき。

- ▶「Tsunashimaサステナブル・スマートタウン」(Tsunashima SST)は、パナソニックの企業不動産を活用したプロジェクト。神奈川県藤沢市のFujisawa SSTに続く第二弾です。異業種の複数事業者がまちづくりに向けて共創しています。
- ▶スマート集合住宅、スマート商業施設、Tsunashima SST SQUARE(国際学生寮・タウンマネジメントセンター)が新たに竣工し、2018年3月26日にまちびらきが行われました。既に稼働しているタウンエネルギーセンター、水素活用拠点、スマート技術開発施設とともに、次世代都市型スマートタウンとして始動します。
- ▶パナソニックはタウンマネジメントセンター内に、技術・マーケティング実証を行うなど様々なオープンイノベーションを創出するためのスペース「イノベーションスタジオ」を構築。
- ▶大林組が構築する3Dまちづくりプラットフォームには、パナソニックのセンシング技術を提供し参画。
- ▶また、パナソニックと慶應義塾大学を中心に「Tsunashima SST Lab」を創設。
- ▶今後も持続して地域の価値向上につながる取り組みを推進していきます。



Tsunashima SST 全景



Tsunashima SST SQUARE



イノベーションスタジオイメージ(7月開所予定)

商品の詳しい情報は